

## [2016]九州大学情報統括本部年報 : 2016年度

<https://hdl.handle.net/2324/2198501>

---

出版情報 : 九州大学情報統括本部年報. 2016, pp.1-. Information Infrastructure Initiative, Kyushu University

バージョン :

権利関係 :



## 2016 年度年報の発行にあたって



情報統括本部長 安浦 寛人

情報統括本部は、九州大学の全構成員（教職員と学生）に教育・研究・事務・診療に必要な情報基盤（インフラ）と各種情報サービスを提供することを目的とし、情報基盤研究開発センター、事務局情報システム部、および附属図書館の3つの部局を中心に、全学的な組織として2007年度に発足しました。情報統括本部自体は教員と技術職員と事務職員からなる部局横断的な組織ですが、必要に応じて全学からの協力を得ながら、幅広く実質的な活動を行っています。

2016年度は、藤村前本部長の定年退職に伴い、4月より安浦が情報担当理事・副学長として本部長（CIO(Chief Information Officer)とCISO(Chief Information Security Officer)を兼務）に就任し、谷口情報基盤研究開発センター長（副CIO）、坂本情報システム部長（副CIO）、岡田附属図書館付設教材開発センター長（副CIO）および岡村サイバーセキュリティセンター長（副CISO）とともに情報統括本部のガバナンス体制を整備してきました。情報統括本部が従来から提供しているネットワーク、無線LAN（kitenet、edunet）、認証基盤、全学基本メールなどの運用、ソフトウェアの一括契約による情報環境の整備や学生PC必携化への対応などに加えて、いくつかの重要なサービスの運用を変更・改善しています。特に、2013年度から始めたPC必携化が学年進行で進み、医歯薬系の一部を除きすべての学部学生が自分のPCを持参する体制が完成しました。これに伴い、年度内に学内の学生用のパソコン利用室をほぼ撤廃しました。また、4月からは、キャンパスの主要な会議室や教室でeduroamのサービスを開始し、学外からの訪問者にも特別な負荷をかけることなく無線LAN経由でのネットアクセスを可能にしました。10月には、情報統括本部の多くのメンバーが所属する情報基盤研究開発センターや情報システム部の主な機能が伊都キャンパスへ移転し、キャンパス移転完了後の新しい体制での活動を本格的に開始いたしました。また、2017年からの教育用情報システムおよびスーパーコンピュータの更新に向けて、仕様策定や入札の準備を進めました。種々のシステムのクラウド化も推進し、利用者に不便をかけずにサービスの向上と経費の削減の両立に務めています。めまぐるしい情報技術の進歩と利用者のサービスニーズの変化に対応するために、常に事業室等の構成や所管事項を見直し、実情に即した体制作りを心がけています。

本報告は、2016年度の情報統括本部の主な活動を報告するとともに、将来のサービス向上に向けての方針や方向性を学内外の利用者に周知することを目的としています。情報統括本部が、学内外の利用者の視点に立って、新しい技術を取り入れつつ、安全・安心に、安定して、使い易い情報基盤と情報サービスを提供していけるように、利用者各位の忌憚のないご意見やご要望をいただければ幸いです。